

巨石が語る常世への入口

支那 豊田

今年(二〇〇四)八月一九日、二〇日と地元の好事家藪田徳蔵さんの求めに応じて柳原さんと瀬戸内海の小島、高島を訪ねた。ここは瀬戸内では東に当り岡山県と香川県の間を点々と繋ぐ塩飽諸島の中である。但しこの島は岡山県笠岡市に属し連絡船でも笠岡港から一時間もかからない至近距離にある。ここには巨石が目白押しにあると藪田さんが知らせてくれた。彼は七五才元大工、仕事をやめてから島の巨石調査に精を出してきたが足腰が衰えそろそろ限界、私たちの学会に調査の引き継ぎを要請したきたというわけである。島は一周五キロほど、御多聞に洩れず過疎化で若者が少なく人口も二〇〇人ほどのこと。

藪田氏のいうとおり島全体が巨石の宝庫ではあった。とくに目立

つたのはいわゆる陰石が数多く散在していたことである。その陰石のうちでも子妊石(こはらみいし)、姫石、孫姫石と三石一組になったものには大力の女の子産み落し伝説が付随する。子妊石の下部



写真：子妊石

はそっくりそのまま女性器であり生々しいまでに写実的であって子

妊石全体が巨大な女性の臀部だった。藪田さんは人が彫ったに違いないという。多分そうであろう。島に散在する陰石のほとんどが同じく生々しい写実的女性器であり巨大臀部であった。その割には対となるべき陽石がみあたらない。唯一子妊石のそばには陽石があったとのことであるが建築資材にされてしまい今はない。対になるべき陽石を欠きながら多数の陰石がある理由はこの島の南、白石島にあった。藪田さんの案内で私が注



写真：亀型石 亀頭

目したのは亀石である。先が尖った巨石の突出部の片側だけを削り取り頭とし亀型にしている。亀型石も無数にあるがその全てが同じ加工がなされている。巨石遺跡には亀石はつきものだが高島の物が特異なのは間違いない。さらに亀石は数個以上集っていてそこが古代の墓だったと島では言い伝えている。そんな墓が多数あるがそのうちの一つに横穴古墳が随伴してあった。島の言い伝えは正しいであろう。そう思って亀型石が集積

する巨石群をよくみると周囲よりは盛り上がった地形となっている。巨石を積んで塚を造営し亀型石をシンボルとして数体置くのがこの島の古代墓陵形式だったらしい。この墓陵形式は縄文晩期から古墳時代まで続いたのではないか。すぐそばから縄文晩期の土器が発掘された「墓陵」もあるのだ。土器は祭器だったのかもしれない。

多数の亀型石、墓、陰石の散在からしてこの島全体を常世（とこよ）と繋がる異界と古代の人々はみなしていたのではないか。もしそうなら亀に関する遺跡があると思ふ藪田さんに聞くとまさにそれはあった。この高島は神武天皇が東征の途次にしばらく居住した吉備高島の宮跡だと島民は伝えている。現在では岡山市の宮浦となっているが島民は明治時代に岡山市にとられたと今でも残念がっている。島の北、神武天皇が上陸したと伝えられる場所、黒土には海亀がやってくる住みついたそうである。海亀の産卵場所だった。明治以降にも巨大海亀が住みついたことが

あったとのこと。そこから海を眺めるとなんと亀そっくりの島がみえるではないか。差出島といふ頭部に当る突端は月見の名所として有名であり月出島ともいうそうである。



写真：高島向い差出島

ある。海岸を三〇〇メートルほど歩いてみてわかったがこの島が最も亀に似て見えるのはこの場所からの眺めであった。墓は常世への入口であるから高島は神武伝説はともあれ亀、女性、常世とかかわる重要な島であると私は確信した。亀、女性、常世なら浦島伝説である。それも浦島太郎ではなくその

原形、奈良時代成立の丹後国風土記の浦島子伝説の方である。

若い漁師の浦島子は海に出たが二、三日たつてもまるで釣れない。かわりに亀が釣れたが眠ってしまった。目覚めると亀は若い美女に変わった。神女だった。この神女に誘われ遙か沖の竜宮（すなわち常世）島に行き、二人はたちまち契り三年間幸福に過ごしたが、浦島子は望郷の念絶ちがたく神女から玉くしげをもらい一瞬にして故郷に帰ってくる。しかし知る人も我家もなく時間は三〇〇年も過ぎていた。開けてはならないと神女からいわれていた玉くしげをあけてしまったので再び神女とは会えなくなってしまった。これが浦島子伝説の大意である。これに似た伝説はインドネシアから台湾、沖縄、南九州とあり『日本書紀』では浦島子は丹後ではなく住之江、現在の大板住吉の住人になっている。この伝説の本流は南九州から瀬戸内海を経て大阪の住吉に至るものだったらしい。それは神武天皇の東征経路に重なる。ともあれ高島

の巨石はこの島が常世への入口だったことを物語る。浦島子伝説では亀は神女であり常世竜宮に導いたから亀を常世への案内人と考えていた。高島は亀型石を彫り対岸には亀型の島もあり海亀の産卵場所だったのだから常世の入口とみなして何の支障もないであろう。



写真：海亀棲息池跡

白石島は高島から南二、三キロである。高島の二倍近くの広さがある。ここでは弘法大師が開基したといわれる開龍寺が観光の目玉であるがその南展望台のある魔天嶺の一角にピラミッドを思わせる巨石積み磐座がある。その偉観は



写真：ピラミッド型磐座

高知県足摺岬の巨石、唐人岩をし
のぐ。唐人岩は巨大なプラトホ
ームが地震で崩壊した姿であるう
と思うがこの磐座は天をつきさす
ピラミッドである。唐人岩ほどで
はなかったにしてもそれに近い巨
石が何段にも四角錐状に積まれて
いるとみえる。これが果たしてピ
ラミッドなのかどうかは定かでは
ないがその可能性は高い。私は従
来ピラミッド、巨石、洞窟が三
セツトの光通信装置とやってきた。
白石島には高さ五メートルはあ
るかと思える男根そのまま極めて
写実的な陽石があっちこちに起
立している。さらには島の至る所
に洞窟があるとのこと。ここは島
全体が光通信の基地だったのであ

ろう。最巨大陽石にはとびがとま
って強い光を発したため陽石が白
く輝き白石島の地名起源になった
と伝えられている。
高島には対となるべき陽石を伴
わない陰石ばかりである。高島の
陰にたいしてこちらは陽なのは一
目瞭然。両島で陰陽一対であった
のであろう。そのことにかかわる
かどうかはわからないが白石島に
は高島に対抗してなのか神武天皇
が飲んだ真名井はこちの方だとか
豊浦宮があつて神武が居住したと
か伝えている。但し『古事記』に
も『日本書紀』にもこんな名の宮
は記載されていない。両島で神武
伝説を競うのは単に近距離なだけ
ではあるまい。両島が本来陰陽一
対だったからであらう。
高島が常世への入口だったとし
たら白石島は何なのか。巨石のあ
りようから探ってみたいが今のと
ころ想定しえていない。
魔天嶺とはいかにも仰々しいが
島のどこからでもピラミッドが天
を突き刺してみえるのだから島の
人々にとつてはこの名がふさわし

かったのであろう。この天をつき
さすピラミッドのすぐ近くに鎧岩
（よろいいわ）と呼ばれる天然記
念物の奇岩がある。岩の表面がま
るで鎧状にうろこ型に縦横整然と
格子にタイルの目地と見違うばか
りに浅い亀裂が走っている。見よ
うによっては正方形の切り石を貼
ったのではないかとさえ思える。
急斜面の中腹にあり足場が悪くて
近づき難いのだがそれでも無理し
て近寄り岩の表面を凝視してみる
とこれはまぎれもない葺石だった
明治時代に天然記念物とされたら



写真：鎧岩葺石接着面？

しいがその当時の人々には珍しい
天然岩だったのか。これが葺石だ
と思えたのは縦横二〇センチほど
の正方形の石片が欠けている部分
があり欠落せずに残っている石片
の断面がみえたからである。それ
は本体の岩にどうみても貼りつい
ている。但しその接着が恐ろしく
密実であるのは恐るべき技術とい
うしかない。岩石学者が天然物と
鑑定しているのにあえて葺石など
と異義を唱えるのは如何がなもの
かと思ふし絶対的確信があるわけ
でもない。しかし驚くべき巨石を
積み上げて造られた天をつく。ピラ
ミッドをみているとついこれに葺
石が貼られていた姿を想像してみ
たくなる。